

令和3年度 年度末 学校評価表				愛南町立城辺中学校				アンケート結果(人数)						
重点目標	評価指標及び目標値	評価	学校による考察<◇>及び改善策等<◆>	評価資料		到達率 [肯定評価(A,B) の割合]	A	B	C	D	?			
							A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない ?…判定できない							
生徒理解の充実	生徒理解に努め、生徒の課題に積極的に対応している。  目標値:アンケート結果80%以上達成	中間期	A	◇生徒指導部において、生徒の生活情報を共有しながら、組織的に対応することを心掛けてきた。そのことが、問題が大きくなる前に解決している要因であると考えられる。また、定期の教育相談やチャンス相談、毎月実施している学校生活アンケートから、生徒の抱える不安や悩みに寄り添いながら対応をしていることが、高い評価につながっていると考えられる。 ◆保護者、生徒においてC・D評価が若干数いることを踏まえ、人間関係等で悩みを抱える生徒に気付く感度を高め、生徒に寄り添い迅速に対応すること、今後も継続して取り組んでいく。	教職員	1	100%	15	6	0	0	0		
					保護者	1	97%	30	81	4	0	0		
					生徒	1	96%	85	49	4	1	0		
		年度末	A		◇中間期同様、生徒指導部において生徒の生活情報を共有し、対応を検討した上で組織的に動くことを心掛けてきた。そのことが、問題行動の未然防止や問題発生後の早期解決につながっている。また、定期の教育相談はもちろん、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの教育相談、毎月実施している学校生活アンケートなどから、生徒の抱える不安や悩みに寄り添いながら対応をしていることが、高い評価につながっていると考えられる。 ◇不登校傾向の生徒に対して組織的に対応してきたことで、明るい兆しが見えている。今後も継続して関わっていききたいと考えている。 ◆保護者、生徒において後期もC・D評価が若干数いることを真摯に受け止め、人間関係等で悩みを抱える生徒に気付く感度を高め、生徒に寄り添い迅速に対応することを、今後も継続して取り組んでいく。	教職員	1	100%	14	9	0	0	0	
						保護者	1	99%	32	84	0	1	1	
						生徒	1	98%	82	50	1	2	0	
	中間期	A	◇全体的に落ち着いた雰囲気の中で学校生活を過ごしている。全校一斉教育相談や毎月実施する生活のアンケートからも、楽しく伸び伸びと学校生活を送っていることが分かる。また、行事等を通して、集団の中での自己の在り方も考えることができるようになってきていることが高い評価につながっていると考えられる。 ◆保護者からは地域での挨拶が少し弱くなってきたという評価がある。学校外でのけじめについても触れる機会を設けていく。 ◆生徒が安心して過ごせる雰囲気を保つために、引き続き、教職員全員で生徒を見守る体制を維持していく。 ◆学級や学年、部活動など、様々な集団の中で生徒の自浄力や自治力を、更に高める指導を継続していく。	教職員		2	100%	7	14	0	0	0		
				保護者		2	94%	29	78	7	0	1		
				地域住民		1	97%	12	24	1	0	1		
	年度末	A		◇中間期同様、全体的に落ち着いた雰囲気の中で学校生活を過ごしている。毎月の生活のアンケートからも、楽しく学校生活を送っていることが分かる。また、運動会や文化祭といった縦割りで行った学校行事を通して、自立心や自律性等が大きく成長してきたことが、高い評価につながっていると考えられる。 ◆生徒との教育相談は重要であるが、時間の確保が難しい現状がある。昼休みを有効に使うなど、生徒指導主事が効率よくコーディネートを行い、更に豊かな人間性を育てていきたい。 ◆引き続き、教職員全員で生徒の見守り体制を維持し、安心して学校生活を送れる環境づくりに努める。また、学級や学年、部活動など、様々な集団の中で生徒の自浄力や自治力を高める指導をしていく。	教職員	2	96%	8	14	1	0	0		
					保護者	2	97%	25	89	2	1	1		
					地域住民	1	100%	12	29	0	0	3		
温かい集団づくり	いじめのない、認め合い、支え合う集団づくりができている。  目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A		◇各行事(修学旅行や集団宿泊研修)を通して、学級や学年で協力して活動し、目標を持ってより良い集団づくりを進めることができた。 ◇ライン等のSNSの利用について、各家庭でルールを定めているが、使い方や時間などについてルーズな生徒がいる。 ◇不登校傾向にある生徒に対して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをはじめ、多くの方と連携して対応することができている。 ◆保護者、生徒におけるC・D評価は、トラブルやいじめにつながる人権意識が低い言動が存在するという点である。日頃からの生徒の様子に目や気を配り、初動を適切に行い対処していく。また、道徳科を要した全ての教育活動で、生徒の発達段階に応じた適切な指導を行っていく必要がある。 ◆特にSNSの利用について、トラブルやいじめにつながるものがないよう日々の指導を継続するとともに、家庭との連携を図り、見守り体制をより一層強化していく。	教職員	3	95%	3	17	1	0	0	
						教職員	4	100%	13	8	0	0	0	
						保護者	3	86%	21	76	16	0	2	
		年度末		A		◇各行事の縦割り活動の中で、仲間を尊重したり、認め合ったりするなど、生徒間同士が支え合う成長が見られた。また、学級でも協力して活動し、目標を持ってより良い集団づくりを進めることができた。 ◇毎月の生活アンケートや教育相談の結果は良好であり、特に大きな課題のある生徒は少ない。今後も継続していじめを許さないという雰囲気をつくっていく。 ◇道徳科の授業を中心に全教育活動において、相手や周囲のことを考え、善悪の判断ができ、自分の考えを持って行動する集団づくりに努めている。 ◇ライン等のSNSの利用について各家庭でルールを定めているが、使い方や時間などにルーズな生徒がおり、問題も起こっている。 ◆学校生活に望ましくない言動が見られた場合には、集団の秩序を維持するために指導することを心掛ける。また、SNS等の目に見えにくい問題行動に関しては、家庭との連携を図り、見守り体制をより一層強化していく。	保護者	4	97%	56	55	2	2	0
							生徒	3	100%	108	31	0	0	0
							生徒	4	96%	97	36	5	1	0
	中間期	A	◇生徒は、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を過ごしていると考えている。 ◆学校内外での生活で、立場が強いものや年長者が弱者を笑いものにしたり、他人のことを面白おかしく話して楽しんでいたりする風潮をなくしていかなければならない。 ◆教職員から、生徒の人権意識の低さや人権教育が後回しにされているのではないかと意見があるため、率先した研修を全員で行い、「できている」と感じている生徒の悪口やいじめが野放しになっている状態を認め、繰り返し意識改革をしていかなければならない。 ◆SNSやメールでの誹謗中傷、悪口等のいじめを受けた側が、何の気兼ねもなく暮らしていけるようにしていくことは、同和問題も同じであると考えられる。	教職員			5	85%	5	12	3	0	0	
				保護者			5	94%	25	80	6	1	3	
				地域住民			3	100%	8	20	0	0	10	
	年度末	A		◇生徒は、人権月間や人権作品づくりを通して、人権について深く考えることができています。 ◆大森文化会館を人権発信の中心地と位置付け、日頃から生徒も教師も活用していけるよう工夫していく。 ◆生徒と教師の人権意識の低さや人権教育が後回しになっていると考えられているため、全体で率先した研修を行い、人間としての気品と尊厳や同和問題学習の技量を高めていく必要がある。		生徒	5	99%	101	36	2	0	0	
						教職員	5	83%	6	13	4	0	0	
						保護者	5	93%	28	79	7	1	3	
特別支援教育の推進	中間期	A			◇生徒は、学校生活の中で、特別支援の学級の生徒たちと快く付き合っていると思う。 ◇障がいや理解し、思いやりの心で関わろうとする意識を持った生徒が多い。行事や交流の授業においても、協力して活動していた。 ◆昨年に比べ、目に見える障がいのある生徒は目立たないが、実際には、去年より個々の障がいの悩みや問題が細分化、深化している。一人一人を大切に、皆で情報を共有していかなければならない。	地域住民	3	100%	8	24	0	0	12	
						生徒	5	99%	95	39	1	0	0	
						教職員	6	90%	7	12	2	0	0	
	年度末			A		◇特別支援学級の生徒が安心して行事や活動に参加していた。今後もお互いに思いやりを持って、関わる雰囲気を継続させたい。 ◆それぞれが持つ苦手な部分を理解し、認め、支え合える環境づくりを、更に学校全体で進めていきたい。	保護者	6	95%	38	69	6	0	2
							地域住民	4	100%	6	19	0	0	13
							生徒	6	99%	108	30	1	0	0
年度末	A	◇特別支援学級の生徒が安心して行事や活動に参加していた。今後もお互いに思いやりを持って、関わる雰囲気を継続させたい。 ◆それぞれが持つ苦手な部分を理解し、認め、支え合える環境づくりを、更に学校全体で進めていきたい。	教職員	6			96%	8	14	1	0	0		
			保護者	6			97%	41	72	3	0	2		
			地域住民	4			93%	8	20	2	0	14		
生徒	6		99%	101		33	1	0	0					

<p><b>学校運営協議 会委員の所見</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の一人一人が教師に頼り、教師たちは皆さんで協力して個々の生徒を見落とさぬ誠意が見受けられ、学校全体のまとまりを感じた。</li> <li>・生徒指導とはいえ、日々の生徒の成長は家庭での保護者の姿勢・考え方・子どもへの親としての向き合い方が基本になっていると考える。従って、我が子の態度に良識ある言動が身に付いて成長に繋がっているかを真向き、そして、見抜ける保護者へのサポートが、学校・教師に求められている現状ではないかと考える。</li> <li>・結果から、生徒が伸び伸び学校生活を送れていることが分かる。全ての生徒から最高の評価をもらうのは難しいと思う。現状維持をしながら、少しでも先生方の負担が減っていくとよいのではないかと考える。</li> <li>・CとDの評価が、中間期から改善されてる点が良かった。生徒の内面に関する項目で、先生方の生徒と向き合う対応が、保護者に理解された結果だと評価できる。</li> <li>・携帯電話については、学校では全体的な使い方を指導していただき、詳しい使い方については、契約者である保護者の方が、家庭でルールを決めて使用すればよいのではないかと考える。</li> <li>・いじめのない学校生活を送るため、教職員と生徒が一丸となって取り組んでいる中で、一部の生徒によると思われるいじめが、LINE等のSNSで目に見えにくい形で行われていることが、保護者や生徒のアンケートから見られる。</li> <li>・「いじめ」に関して、生徒の意識は改善傾向にあるようだが、相変わらず保護者の評価は厳しいものがある。中間期以前のことを保護者が引きずっているのではないだろうか。</li> <li>・学校が楽しいと答えた生徒が、中間期よりも多くなっていてよかった。ただ、保護者のいじめに関する項目ではCとDの評価があり、学校側が思っているより、不安や不満を強く感じているように思う。</li> <li>・不登校生徒や課題を抱える生徒には十分対応していると思うが、学校のできることには限界がある。何をどこまでするか、家庭や関係機関と協議する必要がある。</li> <li>・教師によって個性があり指導感が異なってもよいが、基本的な部分で指導に温度差があると、その積み重ねが大きな「不徹底」となる恐れがある。約束が守れていないことに対して、「叱る」か「注意する」か「言葉掛けをする」か「待つ」か「無関心」か、その差は大きい。</li> <li>・教科担任制の中学校では、毎日の「朝の会」と「帰りの会」が学級づくりの要となり、生徒指導や道徳教育の場としても貴重な時間と捉えてほしい。</li> </ul>	<p><b>学校の対応</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も毎週生徒指導部会を開催し、生徒の学校生活の様子の確認や教師間の指導の徹底を図っている。ただ、情報量が多くなり、支援方法や指導方法が学年部に委ねられるケースもあり、部会自体の持ち方についても検討が必要である。事前の資料提供に加え、対応策についても各学年の中で事前に話し合いを進めておけると、部会の中での問題提起に対して対応策が十分に話し合え、指導の徹底が行いやすくなる。そのためには膨大な時間が必要になるため、難しい現状がある。今後コーディネータとなる生徒指導主事とも相談をし、より効果的な方法を考えていきたい。</li> <li>・学校生活アンケートで見つかった問題については、学年部を中心に迅速に対応してきた。ただ、生徒自信が伝えられないケースも多々あると考えられる。普段の何気ない会話や行動など、教職員は常にアンテナを張り巡らせ、しっかりと見守っていききたいと思う。また、生徒や保護者に不信感を抱かさないように、一貫した指導に努めていくとともに、生徒はもちろん、保護者とのコミュニケーションも十分に図っていききたい。</li> <li>・SNSについての問題が起こっていることは事実である。今年度より、学習効果を高める一つの要素として、生徒一人に対して一台のタブレット端末（クロムブック）が配付されているが、セキュリティが強化され、使用上のルールについても学校で徹底しているため、大きな問題はないと考えている。しかし、家庭に帰れば、生徒それぞれに自由になる端末（クロムブック以外）を持っており、家庭でのルールは決めさせているものの、実際の使用用途や時間については把握ができない現状がある。学校としてできることは、情報モラル教育を継続して進めていくことと、学級活動や道徳科の授業を通して、良識ある行動がとれるように指導を続けることである。また、生徒に対する啓発活動だけではなく、参観日を活用して講演会等での保護者の啓発にも努めていきたいと考えている。</li> <li>・人権教育は、普段の生活に表れてくる態度や言動をいかに見過ごさずにいるかにかかってくると考える。人間だれしも誤りは起こすものである。その際、間違いを理解し、納得できる指導が必要であると考えている。</li> </ul>
---------------------------------	--	---------------------	---

確かな学力の定着と向上	指導方法の改善・充実	ICTを効果的に活用するなど、個に応じた指導を工夫し、分かる授業の充実に努めている。  目標値: アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇一人一台のPC端末配付等ICT機器の充実により、個々の意見の確認や個に応じたドリル学習が容易に行えるようになったと思われる。 ◇一斉授業だけでは理解が十分でない生徒に対して、自主学習ノートを活用したり、昼休み等を使って短時間で個別指導を行ったりしている効果も見られる。 ◆教職員のICT活用のスキルに個人差があるため、職員研修を通して全体のレベルアップをしていく。 ◆教職員の授業力向上のため、各種研修会等に積極的に参加する機会を増やす。	教職員	7	86%	10	8	3	0	0
			年度末	A	◇ICTの活用は、生徒・教師共に慣れてきているため、今後更に効果的な活用が見込まれる。 ◇個に応じた指導という点においては、年間を通して指導の行き届きにくい生徒へ自主学習ノートや昼休みの再テスト等、個別指導を継続して行っており、ある程度の効果が見られる。 ◆一斉授業では理解が難しい生徒が増えてきているように感じる。校内研修を充実させたり、研修会への参加を積極的に行ったりすることで、教職員の授業力向上を図り、より個に応じたきめ細かな配慮を行っていく。	教職員	11	100%	11	9	0	0	1
	基礎・基本の定着	基礎的・基本的な学習内容の定着を図っている。  目標値: アンケート結果80%以上肯定・小テストや単元テストの各教科平均70点以上	中間期	A	◇それぞれの教科で、学習内容が確実に理解できるように、授業の工夫を行っている成果が出ていると思われる。落ち着いた学習態度が、基礎的・基本的な学習内容の定着に結びついているとも考えられる。 ◆平均的に見れば目標値を超えているが、まだ知識や理解に乏しい生徒もいるため、個別指導を含め、これからの授業改善もしていかなければいけない。	教職員	8	95%	12	8	1	0	0
			年度末	A	◇中間期より微減しているが、三者ともに基礎的・基本的な学習内容を理解しているという結果である。分かりやすい授業をするための教師の工夫と、意欲的に授業に取り組んでいる生徒がマッチしているように感じている。しかし、個々の定着度には差があるため、個別に対応したり、放課後を利用したりすることで、基礎学力の定着を図る必要がある。 ◆これまでの取組を継続し、個々の理解度を確認して適切な支援をする。また、家庭学習との両立ができるように、生徒自身が自ら進んで学習に励むように課題の提出を工夫する。	教職員	8	96%	14	8	1	0	0
	思考力・表現力の育成	自ら考え、主体的に表現しようとする生徒を育てている。  目標値: アンケート結果80%以上肯定	中間期	B	◇教職員は思考力・表現力を育成する授業展開に努めており、生徒は自分の考えを書くことができるようになってきている。しかし、その考えを進んで発表するまでには至っていない。 ◆授業や「コラムを読む」での指導を継続して行うとともに、自分の考えを自分の言葉で語るができるように働き掛ける。集会時には感想を発表できる時間を設けるなどして、主体的に自分の考えを表現できる場面を設定し、日常的に表現力の向上を図る。	教職員	9	95%	6	14	1	0	0
			年度末	B	◇教職員・保護者は中間期とあまり変化は見られないが、生徒についてはやや上昇傾向が見られる。自分の考えを表現しようとする生徒が、少しずつ増えてきている。 ◆自分の考えを書くだけでなく、授業や集会などで発表できる機会を増やすことで、主体的に考えようとする気持ちを育てていきたい。	保護者	9	80%	24	67	23	0	1
	家庭学習の習慣化	生徒に家庭学習の習慣が身に付いている。  目標値: 家庭学習時間毎日90分以上(塾での時間も含む)達成80%以上	中間期	C	◇教職員は目標値を超えており、以前よりは家庭学習ができ始めたと感じているようである。実際に、毎日の自主学習ノートの作成や各教科での課題の忘れ物が減っている。 ◆生徒で70%、保護者で60%程度の達成率であり、家庭では学習の習慣が身に付いていないと考える割合が高い。家庭との協力体制を築くなど、連携を密にすることで、家庭学習の習慣化を目指したい。	教職員	10	85%	5	12	3	0	1
			年度末	B	◇中間期と比較すると、保護者の肯定率が10%程度上昇した。自主学習ノートの活用や各教科の課題内容の精査、長期休業中の課題提示を工夫するなどした課題のアプローチが、生徒の家庭学習での取組につながったのではないかと考える。 ◆今年度は、昨年度同様に、興味・関心に応じた自主学習ノートへの取組を続けている。昨年度から引き続き行われている取組であり、要領よく家庭学習に励む生徒が多くなっている。習慣化されつつある取組であるため、テスト前の学習だけでなく、普段から個に応じた学習内容の工夫を考慮することで、より効果的な手立てを考えることが必要である。	保護者	10	71%	19	65	28	6	0

<p><b>学校運営協議会委員の所見</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用により、生徒たちの進捗が具現化できていることが、生徒、保護者、先生とも確認しやすいのはメリットだと感じた。</li> <li>ICTそのものが学力向上に繋がるかは疑問がある。ICTの活用も含めた教師の授業力・指導力が第一に重要である。</li> <li>苦手な教科がある生徒が、分からないから教えてほしいと言ってくることもあるのか。また、先生の方から、苦手な教科の苦手な部分について、個別に指導することはあるのか。</li> <li>生徒のアンケートで「授業が分かりやすい」と9割以上回答があるにも関わらず、「授業内容が理解できない」と回答する生徒が3割いる。この点から、授業内容が理解でき、家庭学習を90分以上できている生徒の学力がどのくらいであるのかを知りたい。何か、学習方法の糸口が見えてくるかもしれない。</li> <li>学校が取り組んでいる意欲・熱意が、一部の生徒・保護者に十分届かず、空回りしているように感じる。教職員と生徒・保護者のアンケート結果でも、他の項目に比べ、CとD評価が多いことが目に付く。</li> <li>保護者の中には、学力が身に付いていないことで、先生たちの努力が伝わらず、不満に思っている方がいるように感じる。</li> <li>全体的にも学習の評価が低い。つまり、このままではいけないということを生徒も保護者も感じているということ。生徒の意見にもあったように、友達と競いながら楽しく学ぶ機会を増やしていてもよいのではないか。</li> <li>家庭学習の習慣化が中間期のC評価からB評価になりよくなったと感じたが、学習内容の定着や授業理解の面では、C、Dの評価が増えている。家庭学習の習慣化が学力につながっていないことは残念である。</li> <li>家庭によって自主学習対応が違うということだが、うまく実践している生徒の家庭での取組を、他の生徒や保護者に紹介してみてもよいのではないか。</li> <li>誰でも高校に行ける(勉強できなくても、不登校でも)。ゲームもスマホもし放題ではモチベーションが下がるのは当然である。勉強の動機付け、環境づくり、空気づくりから考える必要がある。</li> <li>一昔前より勉強に対する厳しさが低下している。競争もなく、やらなくてもそれほど叱られることもなければ、生徒は勉強をなめてかかるようになる。</li> <li>学力と体力は相関関係にあることが明らかになった。「鍛える体育」も一つの方法かもしれない。</li> <li>生徒一人一人の学力の向上と定着を図るためには、個人の努力と意欲、取り巻く環境が必要である。生徒自らが、やる気を一杯出し切る努力を、家庭では保護者が、学校では教師が導いてやってこそ、一人一人の本当の学力の定着に繋がると考える。</li> </ul>	<p><b>学校の対応</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用(今年度から導入されたタブレット端末)については、教科による特性も考えられることから、効果的な活用方法についてもっと研修を深めていく必要があると感じている。何をすることもバランスが大切である。あくまでも教具の一つであることから、ICTの活用ばかりが優先される偏った指導にならないよう気を付けたい。また、学力向上に結び付いているかどうかは、まだ分からない。今後、活用の仕方次第で場面に応じた効果が実証されるのではないかと思う。</li> <li>本校には、ICT支援員が配置されている。現在は、トラブルがあれば速やかに対応し、授業が円滑に進むよう助けていただいている。ICT支援員の配置をチャンスと捉え、研修回数を増やし教師のスキルアップに努めたい。</li> <li>タブレット端末(クロムブック)を活用した個別最適な学習として、教科の特性に応じて習熟度によるドリル学習を行っている。また、休みがちな生徒や別室で授業を行う生徒には、ドリル学習の他にも、教室での授業の様子をオンラインで見せることも行って来た。他にも、コロナ禍におけるグループ学習解消の手立てとして、授業支援ソフトを活用した意見の共有や各行事(生徒総会や委員会の集会、始業式など)でのオンラインによる交流を実施するなど、効果的に活用してきた。コロナ禍の中、先が見えない状況であるため、今後でもできることを進めていきたい。</li> <li>基礎・基本の定着を図るために、昼休みを活用した補習や長期休業中の補充授業、部活動指導者による宿題の確認など、積極的に生徒と関わりを持って対応している。授業時間内では理解が難しい生徒がいることは事実であるが、うまく時間を設定して問題を解決するまでには至っていない現状がある。理解を深めていくためにも、授業でのつまづきの確認とそれに応じた課題の提出、そして繰り返しの学習等、うまくリンクさせながら学習を進めていきたい。また、授業において、生徒が興味を持って取り組める工夫を日常的に行っていきたい。</li> <li>年間を通して、ほとんどの生徒が落ち着いた態度で集中して学習に取り組んでいる。ただ、家庭では居心地のよい環境が整っているだけでなく、競争意識も低く、目標はあっても何とかすると安易に考えている生徒もいるため、なかなか学習習慣を身に付けることは難しくなっている。根気よく勉強の必要性を説き、学習環境づくりに努めたい。また、保護者に対しても、家庭でのルールづくり等、協力が得られるよう呼び掛けを継続していく。</li> <li>自主学習ノートの活用の仕方として、参考となるような生徒のノートを、各学年で工夫をして掲示をしている。その結果、ノートの活用方法がよくなっている生徒が見られるようになってきている。今後も学習への意識付けの手立てとして継続していきたい。また、競い合いの活動も、学習委員会とタイアップして考えていきたい。</li> </ul>
----------------------------	--	---------------------	--

特色ある学校づくりの推進	愛さつ城辺の推進	あいさつがよくできる生徒を育てている。  目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇生徒会による「あいさつ運動」は、週1回の取組ではあるが効果的で、ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいる。地域においても進んでよりよい挨拶をする生徒が増えている。しかし、まだ個人差が大きく、日頃から気持ちのよい挨拶の向上が必要であると考えている。 ◆学校では、「あいさつ運動」をより工夫し、主体的で継続的な活動を進めていきたい。また、教育活動全体において、挨拶の大切さや意義について伝えていく必要がある。部活動での取組も大きな効果が期待されるため、挨拶のできる部活動集団を目指していきたい。	教職員	12	95%	12	8	1	0	0
			年度末	A	◇生徒会による「あいさつ運動」の継続によって、1年生から3年生まで、明るい挨拶、元気な挨拶、笑顔の挨拶が増えてきた。相手に伝わる気持ちのよい挨拶の意識が、1年間の取組の中で浸透しているように感じる。今後も工夫を重ねながら、生徒主体で取り組んでいきたい。 ◆引き続き、教育活動全体において、挨拶の大切さや意義について伝えていく必要がある。また、個々の挨拶、地域での挨拶、家庭での挨拶が向上されるように、自分を振り返る活動を取り入れながら、「愛さつ城辺」を推進していきたい。	保護者	12	96%	44	66	4	0	1
	行事・諸活動の充実	感動のある学校行事や生徒の変容・向上を図る活動が行われている。  目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇95%以上の回答が肯定的であるため、評価をAとした。今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策を第一に考えた上で行事を開催しているが、昨年度よりも制限は少なくなっている。精選され凝縮した行事ではあったが、制限の緩和から思った通りに開催されたためではないかと考える。また、生徒は精選された行事だからこそ集中して取り組み、充実感を感じることができていると思われる。 ◆今後の状況によっては、今以上に制限されて開催になる可能性が高いが、どのような形になっても生徒が主体的に考え、活動できるようサポートをしていかなければならない。	地域住民	9	92%	22	12	3	0	1
			年度末	A	◇平均97%以上の回答が肯定的であるため、評価をAとした。2学期も1学期に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策を第一に考えた上で行事を開催したが、1学期よりも更に制限は少なくなっていた。運動会や文化祭等、精選、短縮された行事ではあったが、生徒、保護者、教職員それぞれが十分に満足したためではないかと考える。また、生徒自身は、昨年度の経験から行事が開催されること自体が貴重なことだと気付いたため、これまで以上に集中して取り組んだ結果、充実感を感じることができていると思われる。 ◆新型コロナウイルス感染症も少しずつ落ち着いてきているが、新種の感染状況によっては、今後の予測は全くできない。しかし、どのような状況になっても生徒が主体的に考え、活動できるようサポートをしていかなければならない。	生徒	13	97%	84	50	3	1	1
			教職員	13	95%	9	10	1	0	0			
			保護者	13	97%	38	72	3	0	2			
	地域との連携	情報発信や参観日、懇談会などを通して開かれた学校づくりを実践している。  目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇9割以上の回答が肯定的であるため、評価をAとした。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症予防のため、PTA総会の書面開催や参観日の中止など、学校の様子を見ていただく機会は減っているものの、各種通信やホームページにより、学校行事はもちろん、普段の授業の様子等、様々な教育活動をその都度配信することで、幅広く情報発信をすることができている。 ◆今後もこまめにホームページの更新を行い、学校や学年からの各種通信とともに、学校生活や学校行事、授業の様子、生徒会活動、部活動など、教育活動の様子を幅広く発信していく。また、今後の状況にもよるが、愛媛CATVの協力も得ながら、学校行事の様子についても発信していきたいと考えている。	地域住民	10	97%	8	20	1	0	9
			年度末	A	◇中間期に引き続き、9割以上が肯定的な回答をしていたため、評価をAとした。学校通信や学年通信、校長だより等の各種通信で、生徒の活動状況を家庭や地域に発信している。また、日々のホームページの更新で、授業の様子等も発信し、できるだけタイムリーな生徒の動きも公開することができている。 ◆こまめに情報発信を行っているものの、実際に来校していただく機会は少ない。コロナ禍の影響はあるものの、安全対策をしっかりと行った上で、可能な範囲で公開する回数を増やしていきたいと考えている。学校行事については、愛媛CATV等の協力を得て発信を行っているため、今後も継続していく予定である。	生徒	14	96%	86	48	5	0	0
			教職員	14	100%	14	6	0	0	1			
			保護者	14	98%	44	69	2	0	0			
	学校運営協議会委員の所見	学校運営協議会委員の所見	・生徒たちは元気よく挨拶してくれる。大人である私自身も見習いたいと思っている。 ・学校のグラウンドの近くを通るとき、遠くから野球部の生徒が挨拶してくれる。大変よいことだとは思いますが、道ですれ違う時の挨拶と比べて、少し気恥しくなる。 ・生徒会企画の「あいさつマッチ」は、工夫されていて大変すばらしい。 ・新型コロナウイルス感染症予防のため、様々な行事が縮小・中止を余儀なくされているが、大きな声での挨拶は、城辺中の特色として継続させてほしい。 ・多くの学校で挨拶運動は行っており、城辺中が特別挨拶ができているという印象はない。挨拶が城辺中の特色とまでは至っていないのではないかと。 ・文化祭を見た際、生徒中心で進行するなど、積極的に取り組んでいる姿に感銘を受けた。 ・運動会や文化祭等の学校行事は縮小しての開催ではあったが、生徒の生き生きとした姿が見られてよかった。また、ブロックで競う姿もよかった。学校通信やホームページ、CATVの発信のおかげで、学校の様子もよく分かった。 ・校内駅伝大会は他の学校にない特色の一つと言えるかもしれないが、どの学校も一年を通してほぼ同じ行事や活動を行っており、本来学校の特色を出すことは難しい。この項目は変更してもよいのではないかと。あえて特色を求めるとなると、校区をなくした部活動運営はどうか、統合を機に町全体で中学校の在り方を考え直してはどうか。 ・学校のホームページをこまめに更新することで、生徒たちの取組を知れ、保護者や地域の方々が安心していることが分かる。 ・「各種便りや案内文書を確実に保護者に渡している」の項目で、中間期よりよくなっているものの、まだ6名の生徒がC評価をしていることに情けなく感じた。 ・学校目標を基に、教師、生徒がそれぞれの立場において堅実に進めていき、コロナ禍が収束した折にただちに実践できるよう、蓄えを地道に継続しておけばよいのではないかと。 ・挨拶、学校行事、地域連携と、どれも高評価である。伝統的に文化として継承されていてすばらしい。ただ、郡外への進学を希望する児童がいる現実がある。他の学校には負けない特色を、今後つくっていかねばならないのではないかと。	地域住民	11	97%	18	18	1	0	1		
				地域住民	12	94%	12	20	2	0	4		
生徒				15	91%	91	36	12	0	0			
教職員				14	100%	16	7	0	0	0			
学校の対応	学校の対応	・生徒会が中心となって、毎週水曜日に行われている「あいさつ運動」は本校の伝統となっている。現3年生の生徒会役員は、マンネリ化を防ぐために、様々な方法で全校生徒にアプローチをしてきた。学校内での挨拶は、「語先後礼」は完璧とは言えないが、礼儀正しく元気よくできているように感じる。挨拶は、生活する上での基本である。家庭や学校外でも気持ちのよい挨拶ができるよう、継続して指導を続けていきたい。 ・学校運営協議会委員からの指摘もあるように、挨拶が城辺中学校の特色であるとは言い難い一面がある。挨拶も含め、日常生活における様々な取組に目を向け、何事にも誠実に取り組める生徒の育成に力を入れたい。 ・大きな学校行事については、人数制限や規模の縮小をしながら実施することができた。ただ、規模は縮小したが、生徒一人一人の熱心な取組によって、盛大に行えたことをうれしく感じている。今回のケースを考えても、時間が長いことが充実した取組につながるものではないことを生徒が証明してくれたように感じている。今後の行事の内容を見直す上で参考になるものとなった。 ・コロナ禍においても学校の状況を知っていただけるよう、ホームページや学校通信等の各種通信を通して、学校の様子を知らせてきた。また、昨年度の反省をもとに、できる限り愛媛CATVに連絡をし協力を仰いできた。この取組については、今後も継続していきたいと考えている。 ・地域との連携についても高い評価をいただいているが、実際には、学校を公開する取組がほとんどできていない現状がある。生徒の普段の生活などタイムリーな情報提供として、動画配信なども考えなければいけないと感じている。ただ、映像公開は危険が伴う可能性もあるため検討中である。	保護者	13	96%	47	65	5	0	1			
			地域住民	10	94%	16	17	2	0	9			
			生徒	14	99%	101	32	2	0	0			
			教職員	13	100%	17	6	0	0	0			
学校の対応	学校の対応	・生徒会が中心となって、毎週水曜日に行われている「あいさつ運動」は本校の伝統となっている。現3年生の生徒会役員は、マンネリ化を防ぐために、様々な方法で全校生徒にアプローチをしてきた。学校内での挨拶は、「語先後礼」は完璧とは言えないが、礼儀正しく元気よくできているように感じる。挨拶は、生活する上での基本である。家庭や学校外でも気持ちのよい挨拶ができるよう、継続して指導を続けていきたい。 ・学校運営協議会委員からの指摘もあるように、挨拶が城辺中学校の特色であるとは言い難い一面がある。挨拶も含め、日常生活における様々な取組に目を向け、何事にも誠実に取り組める生徒の育成に力を入れたい。 ・大きな学校行事については、人数制限や規模の縮小をしながら実施することができた。ただ、規模は縮小したが、生徒一人一人の熱心な取組によって、盛大に行えたことをうれしく感じている。今回のケースを考えても、時間が長いことが充実した取組につながるものではないことを生徒が証明してくれたように感じている。今後の行事の内容を見直す上で参考になるものとなった。 ・コロナ禍においても学校の状況を知っていただけるよう、ホームページや学校通信等の各種通信を通して、学校の様子を知らせてきた。また、昨年度の反省をもとに、できる限り愛媛CATVに連絡をし協力を仰いできた。この取組については、今後も継続していきたいと考えている。 ・地域との連携についても高い評価をいただいているが、実際には、学校を公開する取組がほとんどできていない現状がある。生徒の普段の生活などタイムリーな情報提供として、動画配信なども考えなければいけないと感じている。ただ、映像公開は危険が伴う可能性もあるため検討中である。	地域住民	11	98%	20	20	1	0	3			
			地域住民	12	94%	12	20	2	0	10			
			生徒	15	96%	85	44	6	0	0			
			教職員	14	100%	16	7	0	0	0			

健康・安全教育の推進	健康教育の推進	食育や保健指導を通して、健康的な生活をしようとする生徒を育てている。	中間期	A	◇9割以上の回答が肯定的であるため、評価をAとした。食育は、授業や食育だよりの掲示等を通して、生徒へ正しい食生活についての意識付けを行っている。保健指導は、呼び掛けや保健だより、保健指導資料を通して感染症予防への啓発を行っているが、十分ではない場面も見受けられる。 ◆給食時間の教室訪問や授業、掲示物を通して、今後も継続的な指導を行っていく。 ◆継続した個人健康観察の実施に加え、指導資料等の活用や機会を捉えての放送など、感染回避行動の習慣化を図る。	教職員	15	95%	10	9	1	0	0		
		目標値:アンケート結果80%以上肯定	年度末	A	◇9割以上の回答が肯定的であるため、評価をAとした。食育については、授業での発信はもとより、生徒が日頃から関心を持つために、掲示物を随時更新している。そのことが、栄養面での食育への意識付けにつながっていると思われる。2学期は学校行事が多かったため、感染状況に応じた感染対策を意識する場面も多くあった。手洗い、消毒、マスクの着脱については、ほぼ習慣化されてきている。 ◆給食時間の教室訪問や学級活動を活用しての授業、また興味を引くような工夫を凝らした掲示物を通して、今後も継続的な指導を行っていく。 ◆継続して個人健康観察を実施する。また、指導資料等の活用や機会を捉えた指導を行い、更なる感染回避行動の習慣化を図る。	保護者	15	97%	27	83	3	0	2		
	防災教育の推進	防災教育を進め、安全・防災意識の高い生徒を育てている。	標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇生徒、保護者、教職員全ての回答の肯定率が9割以上であるため、評定をAとした。日頃から生徒や教職員は、自らの命を守る意識を高く持っていることが考えられる。 ◇全校で一斉に行う避難訓練は2回実施したが、生徒は迅速な行動がとれている。また、学年によって起震車体験や運搬訓練、保健体育での着衣水泳など、できる範囲で防災意識を高める活動を行ってきたことが、肯定意見につながっている。と考える。 ◆今後は、様々な設定をした避難訓練の実施や交通安全、洪水・土砂災害等に対する安全意識の向上を図り、安全教育が幅広く確実なものとなるよう指導が必要である。また、単なる訓練で終わることがないよう、状況に応じて主体的な行動がとれる生徒を育成していきたい。 ◆今回の起震車体験は、学校運営協議会委員の協力を得て、地域住民にも参加をしていただいた。これをきっかけとして、地域と共にある訓練の在り方を考え、深まりのある防災教育を実施していきたいと考える。	教職員	16	100%	12	8	0	0	1	
							保護者	16	97%	29	80	3	0	3	
							地域住民	14	100%	11	21	0	0	6	
							生徒	17	96%	97	37	5	0	0	
		部活動の充実	部活動に進んで参加し、自主性・協調性・責任感・連帯感等の高い生徒を育てている。	目標値:アンケート結果80%以上肯定	年度末	A	◇中間期同様に、生徒、保護者、教職員全ての回答の肯定率が9割以上であるため、評定をAとした。 ◇今学期は、逃げ遅れやけが人を想定した避難訓練を実施した。全校生徒の避難行動については迅速であり、小学校からの訓練がしっかりと身に付いていると考えられる。 ◆想定内の避難訓練に関しては、行動パターンが確立されているためスムーズに行っている。しかし、逃げ遅れやけが人が発生してしまうような想定外のことが起こった場合には、実際の対応が遅れる状況が起こってしまった。このことから、今後も様々な設定を考えた訓練の実施が必要とされる。そのことが、単なる避難訓練で終わることなく、命を守る行動につながっていくと考える。また、地域と共にある訓練の在り方を考え、深まりのある防災教育を実施していきたいと考える。	教職員	16	96%	8	14	1	0	0
								保護者	16	98%	33	79	2	0	4
								地域住民	14	97%	7	22	1	0	14
								生徒	17	99%	90	44	1	0	0
	部活動の充実	部活動に進んで参加し、自主性・協調性・責任感・連帯感等の高い生徒を育てている。	目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇今年度も昨年度に引き続き、制限のある中での部活動練習期間があった。しかし、昨年度よりもそれぞれの部活動で意欲的な取組が多かったように思う。その要因としては、やはり総体の開催が大きい。目標を持った活動が、部活動の充実につながることを実感した。部活動を通して、規律ある学校生活の基盤を育てていけるよう支援していきたいと思う。 ◆保護者・生徒において概ね高い評価ではあるが、中には低評価も見られる。集団づくりの部分で課題がある。また、今後も生徒数減少となる中で、部活動の編成についても考えていかなければならない。今後も部活動ガイドラインに沿った取組を続け、充実した活動となるように配慮していきたい。	教職員	17	100%	13	7	0	0	1	
							保護者	17	95%	37	71	4	2	1	
地域住民							15	100%	13	17	0	0	8		
生徒							18	96%	110	24	3	2	0		
部活動の充実		部活動に進んで参加し、自主性・協調性・責任感・連帯感等の高い生徒を育てている。	目標値:アンケート結果80%以上肯定	年度末	A	◇コロナ禍ではあったものの、感染対策をした上で少しずつ大会が開催されるようになり、生徒は目標を持ちやすくなっているように思う。また、大会での経験から課題がより見えるものとなり、それが日々の練習の意欲化につながっている。1・2年生が中心となったため、集団づくりを進めていく上でうまくいかないことも多い。その部分での支援をしていかなければならない。 ◆今回も保護者・生徒等、概ね高い評価ではある。教職員については、到達率が100%であった。しかし、中には低評価も見られる。教職員の取組が伝わっていないからではないかと考える。生徒や保護者等とのコミュニケーションを図りながら、部活動の運営をしていかなければならない。また、今後も生徒数減少となる中で、部活動の編成についても生徒の実態を踏まえ進めていかなければならない。	教職員	17	100%	14	9	0	0	0	
							保護者	17	97%	29	83	4	0	2	
							地域住民	15	97%	12	21	1	0	10	
							生徒	18	96%	94	35	4	2	0	
学校運営協議会委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体がコロナ慣れで、「緊張感のないウィズコロナ」状態にあるのではないかと。</li> <li>感染力が強いオミクロン株がまん延している最中、学校生活、部活動等、様々な活動が制限されている。再度、消毒やマスク着用等の徹底をし、感染しないようにしてほしい。</li> <li>真冬でも約半数の生徒は教室で上着を脱いでいる。上着が不要なら暖房も不要。寒ければ上着を着る。むしろ寒いくらいの方が、引き締まって学習には効果的ではないか。エアコンがなかった数年前を考えると、甘やかし過ぎの感があるように思う。</li> <li>学校+地域を巻き込んだ防災の取組を、少しではあるが実施できたことは、大きな成果であったと思う。</li> <li>起震車体験に参加はしたが、あの時の震度7よりも、実際の愛南町震度4では恐怖心が違った。この地震を受けて、防災意識を高く持ち、命を守る適切な行動を身に付けることの重要性を強く感じている。今後とも防災知識の習得や避難訓練を継続させてほしい。</li> <li>防災に関しては、地域主体で共に活動できる仕組みを構築できるとよいと思う。</li> <li>コロナ禍での部活動は、様々な制限があるとは思いますが、学年を超えてのつながりができる大切な場であるため、感染に注意しながら継続してほしい。</li> <li>コロナ禍という制限がある中で、生徒・先生の努力が伝わってくる。少子化の中で部活動の再編成が検討されているとは思いますが、是非とも特色ある形で考えてほしい。</li> <li>部活動の充実において、教職員と保護者との考え方に少しのずれを感じる。</li> </ul>				学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種通信等で、新型コロナウイルス感染症予防対策について、様々な資料を提供している。また、状況に応じて校内放送や集会で感染予防対策の徹底について働きかけてきた。また、学校生活における基本的な対策についても、日々声掛けを行っている。ただ、コロナ禍が長期化していることと身近なところに感染者がいないことから、少くくはと危機感に欠ける面は教職員・生徒ともにあったように思う。先行き不透明な現状であることに加え、感染リスクを考えさせた上で、危機感を持って共通した指導を行ってほしい。</li> <li>1学期には学校運営協議会委員の協力を得て、一部ではあるが地域の方にも起震車体験に参加していただいたことは、地域と共にある防災教育につながる大きな成果だった。しかし、再度コロナ禍の影響を受け、11月に予定していた地域を巻き込んだ避難訓練や避難所運営はできず残念であった。その代わりとして、校内での避難訓練を想定を変えながら実施した。今後、地域と共に活動することは不透明なため、校内での防災教育を充実させ、自分の命は自分で守れる取組を進めてほしい。</li> <li>部活動の運営に関しては、再編も含め喫緊の課題である。生徒や教員の減少から考えると、部活動を削減せざる負えない。ただ、生徒の選択肢が減ることは、学校運営上マイナス面が大きくなり、生徒数の減少が加速化することも考えられる。今後、周辺の学校とも相談し、慎重に対応策を考えていく必要があると考える。</li> <li>コロナ禍の影響もあり、部活動が満足に行えていない現状がある。また、数年前から練習時間の短縮や休日の確保などの規制がある。現在の部活動の在り方について、生徒や保護者、地域の方々に伝え、理解を求めていく必要がある。</li> </ul>									